

平成30年度 学校評価総括表 伊丹市立荻野小学校

教育目標		自ら学び、熱く、生き抜き子どもの育成											
重点目標		○支持的風土の学級づくり		○学習指導の充実(確かな学力の向上)		○規範意識の高揚と生活習慣		○体力の向上		○防災・安全教育の徹底		○開かれた学校づくりの推進	
項目	重点項目	具体的施策		達成目標	自己評価	成果と課題		改善策		学校関係者評価			
学力の向上	基礎・基本の徹底と、授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的、基本的な知識・技能を習得させる。 ・自ら考え、伝え合う力を育む。 ・授業力の向上と授業の改善をめざした校内研究会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字・計算の小テストを単元ごとに繰り返し実施する。 ・学年に応じた復習プリント(計算・文章題・国語の読み取り問題)を取り入れ、継続的に学習する。 ・校内研修としてすべての教員が年一回以上授業を公開する。 ・算数では、ふきだし法を取り入れ、自分の考えを持ち、伝え合う学習を積み重ねる。 ・授業の中でのめあてを明確にし、児童が振り返る時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字・計算の小テストの正答率を80%以上にする。 ・学校全体として授業力向上に取り組んでいく。(すべての教員が年一回以上の授業公開) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業がわかりやすい」のアンケート項目で、保護者、児童ともに90%を超えた。 ・朝学習が、計算や漢字に偏ってしまい、算数の文章題や国語の読み取りプリントを取り入れ継続的に学習することが難しかった。 ・市内発表があったことで、学校全体で授業力向上に積極的に取り組めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き授業中のめあてを明確にし、わかりやすい授業作りに取り組んでいく。 ・朝学習では、基礎学力の定着を目標に、学校全体として(学力向上を中心に)学年でそろえて取り組めるよう計画していく。 ・会議や研修を精選、引き続き学年で授業研究できる時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の学習では、何度も繰り返し読むこと、声を出して読むことが大切。プリント学習の充実を一層進めてほしい。 					
	読書活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書の時間を設けたり、子どもが意欲的に読書に親しむ環境を整えたりすることによって、読書量を増やす。 ・PTA・地域の方々の読書ボランティアを活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校一斉の朝読書の時間を週一回設ける。 ・読書ボランティアの方を増やすために、学校だよりや学級懇談会などで呼びかける。 ・保護者への啓発。 ・発達段階に合わせた読書指導をする。(図書だより・本の紹介・読み聞かせ・読書カード・読書カレンダー・学級文庫の充実など) ・本を読みやすい環境を整え、めあてを持たせて、読書できるように指導する。 ・図書委員会の活動を活性化。(高学年が図書室に来やすいようイベントを考える。図書委員会からのよびかけを行う。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートにおいて、「本を読んでいる」を80%以上にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年のアンケートで「本を読んでいる」が10%以上増えた。 ・図書委員会では、読書週間に年々2回行い、各クラスに読み聞かせに行くなど、積極的に本に親しむ機会を作った。 ・学校では、読書に取り組めていても、家で読書をする習慣がなかなか身につけていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童だけでなく保護者の啓発もかねて、図書だよりを引き続き発行していく。 ・読書ボランティアや図書委員会の活動も、引き続き積極的に行っていく。 ・借りた本を家に持ち帰る声掛けをしっかりと行う。(特に高学年) ・担任から本の紹介をしたり、図書の時間に一緒に本を読んだり借りたりする。 ・ブックトークを通して、子ども同士で本の楽しさが伝わるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での読書については、「本を借りてきて家で読まない」ということが見られるようだが、習慣づけるには「本を借りる」「家に持ち帰る」という行動が大切。読書習慣を育むためには、「本棚に本が並んでいる」「かたわらに本がある」といった環境作りが、重要である。家庭への啓発を続けてほしい。 					
	学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を工夫し、学習意欲を向上させる。 ・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の場の工夫をした授業づくりに取り組む。 ・学年の発達段階に応じた自主学習の方法を、高学年を中心に学ばせていく。 ・家庭学習の目標時間(10分×学年+20分)を達成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習形態・ワークシート・学習手順(ふきだし法など)・発問・板書・電子黒板などの工夫を取り入れる。 ・家庭学習の目標時間(10分×学年+20分)を達成させる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教職員がわかりやすい授業に取り組む。また、90%以上の児童が工夫した授業だと考えている。 ・算数の授業に限らず、めあてを明確にし、振り返りを大切に授業展開を行ってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き学習の場の工夫の研究を進め、どの子にも意欲を持たせる授業を作っていく。 ・高学年の児童を中心に自主学習の方法を伝え、学習をより自発的に行えるようにする。 ・中学年段階でも自主学習の仕方を教え、ノート指導や課題の選び方まで指導し、高学年につなげていく。 ・児童が自主学習に取り組むやすいよう、テーマを与えたり、しっかり取り組めた児童を評価したり、紹介したりしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが授業のふり返りを発表する際、「わかったこと」の発表だけではなく、「わからなかったこと」を発表しあえる授業作り・学級作りに取り組んでほしい。 					
	特別支援の推進と充実	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援体制の確立 ・個別の指導計画・個別の教育支援計画の活用 ・ともに支え合う学級・学校づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回校内委員会を持ち、ケース会議で話し合われた支援体制・方法を実施していく。 ・低学年で、ひらがな・カタカナ・10までの合成分解の確認テストを行い、実態を丁寧に把握し、支援に活かす。 ・支援の見直し、評価を行い、次年度へつなげる。(引き継ぎノート、サポートファイル、個別の指導計画) ・クラスでの学習にひろがり児童が参加できるように、クラス担任とひろがり担当が連携していく。 ・すべての教職員が、インクルーシブ教育について理解を深める研修を年3回実施する。 ・部会で「ともに支え合う学級・学校づくり」についてとらけみ进行交流し、活かしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケートにおいて「効果的に機能している」意識しながら学級・学校作りを進めた」項目で回答した割合を80%以上にする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・通級教室ができたことにより、「ともに支えあう学級・学校づくり」の意識が児童にも教師にもさらに浸透してきている。 ・担任を中心に、各支援の教師と連携しながら丁寧に実態把握をし、クラスでできる支援や個別に必要な支援を進めることができた。 ・実態把握をした上で、学校全体で取り組める支援プログラムを考えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年向けの確認テスト(ひらがな、カタカナ、10までの合成分解)をシステム化し、実態を丁寧に把握し、支援に活かす。 ・学校内だけでなく、家庭でもインクルーシブ教育について知ってもらうため、懇談や通信、PTAとの連携を通して啓発していく必要がある。 ・生活指導と連携し、子どもの実態を共通理解しながら、支援・指導の方向性を考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級においては、子どもが担任の先生に慣れるのに時間がかかるか聞いています。慣れた頃に「転勤」などで担任の先生の変更があるなど、その関係作りがまた一からなってしまう。できれば、2年以上続けてほしい。 ・特別支援教育を受けることになっている保護者も多いと思われる。学校から声かけをする機会を多く持つてほしい。その意味で通級教室はとてもいいと思う。 					

豊かな心・健やかな体	「命の大切さ」「相手を思いやる心」の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・「心の教育」を推進する。 ・自尊心を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師がひとりひとりの児童のがんばったところやよいところをみつけ、声かけを行う。 ・授業や集会などで、児童同士が認め合う機会を設ける。 ・高学年は年1回心の匠を招聘する。 ・年1回人権参観を行う。 ・学期に1回、道徳の教科書を持ち帰り、家庭で話し合う機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートで「自分に良いところがある」を80%以上にする。 ・児童アンケートで「自分や友だちを大切にしている」を90%以上にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートの「自分に良いところがある」の項目で高学年の数値が少し下がった。 ・教科書を家に持ち帰ってもらうことで、家でも活用することができつつある。 ・道徳が教科になり、より友だちの良いところに気づかせる授業を組み立てた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1つできないことがダメではなく、1つでも自信を持てることに気づかせ、自尊感情を高めていく。 ・引き続き、自尊感情を高めるために、頑張ったことや良いところを見つけ、誉めていく。また、子ども同士で良いところを見つけた時は、それをみんなの前でタイムリーで紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何でもかんでも褒めるというのではなく、その子がかんばった、褒めてほしいところを褒めるのが大事。 ・失敗したときに「大丈夫だよ」という声かけで子どもは安心する。 ・担任・保護者以外に、地域の方に褒められることも、子どもにはとても心に残る。
	いじめや不登校、問題行動に迅速に対応	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で共有・連携し、継続性・系統性のある指導をおこなう。 ・問題行動のある児童に対して、生活・行動・学習面に関わる支援をおこなう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員でいじめや不登校の防止に努める。 ・幼・保・小・中連絡及び交流会を年5回程度実施する。 ・毎月部会で児童の様子について交流し合い、年3回研修会を持ち、全職員で共通理解を図る。 ・日々の児童の様子について、学年間で情報を共有し、場合によっては全職員に知らせる。 ・SC、管理職、養教、専科などしっかりと連携し、児童の様子を理解していく。 ・保護者との連携を図り、関係機関にもつないでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめや不登校の実態を把握し、全職員で共有する。 ・生活指導に関わるアンケートで、保護者・児童の結果を80%以上にする。 ・生活指導に関わるアンケートで、教職員の結果を90%以上にする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰とでも仲良くできる」の数値が95%を超えたが、個々に見ていく必要がある。 ・長期に不登校になっている児童がいるので、引き続き関係機関との連携を密にする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムリーに対応し、タイムリーにみんなに伝える。 ・道徳や人権の授業などで、みんなに働きかける。 ・引き続き、本人が「いじめ」と感じるころはしっかりと話をよく聞き、対処する。 ・アンケートの内容を丁寧に説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の問題は難しいが、SSWや関係機関などと連携しながらこれからの対応を続けてほしい。 ・いじめがないということはありません。子どもが「いじめ」とらえた案件はすべて報告し、その後、経過を観察し対応されている。また継続する案件では保護者に連絡を取り対応されている。今後も続けてほしい。
	健康的で基本的な生活習慣を育む態度を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭と協力して健康的で基本的な生活習慣を育む態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業明け1週間生活リズムチェック表をつけて、学校の生活リズムに早くなるようにする。(2学期・3学期) ・規則正しい生活ができるようにポスターや保健だよりで呼びかける。 ・1週間生活リズムチェック表を基に、個別指導にあたる。 ・身体測定を行う際に、保健指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活リズム表提出率90%をめざす。 ・児童アンケート「早寝・早起き・朝ご飯」において、80%を超える。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムチェック表提出率が、90%を超えた。 ・生活リズムチェックがあることで、意識して生活ができていく。 ・休み明けに、保健室の利用者が増えることもなく、リズムを整える意識が見られた。 ・高学年の「早寝早起き朝ごはん」の項目についての達成率が80%を切っている。「早寝」「早起き」「朝ごはん」のうちどれができていないかを知る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体測定の際、子どもたちの実態に応じて保健指導を行う。 ・ほけんだよりや学年通信などを通して、児童や保護者の健康に対する意識を高めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・寝不足になるのは、しっかりと眠れていないことが原因と考える。テレビだけではなく、「習い事で帰宅が遅くなる」ことや「リアルタイムのネットゲーム」などが考えられる。 ・家庭の生活リズムに影響されている場合も少なくない。
体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・体力づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動でトッポール・長縄大会を通して、外遊びを推奨していく。 ・体育の授業を通して、身体を動かす楽しさを味わわせる。 ・休み時間に体育館を開放し、体操やダンスなど身体を動かす機会を増やす。 ・ワークシートや活動例集を用い、指導力向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートの結果で「運動することが好き」の割合を90%以上にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「運動が好き」の割合が85%を超えた。 ・昨年と比べて「運動が好き」の割合が減った。 ・水曜日に「荻野スポーツの日」を設定することで、外に出る児童が増えた。 ・体育館を開放しているが、使うクラスがほとんどなく、効果はあまりなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一輪車や竹馬など、すぐ手に取りやすい遊具の環境を作る。 ・ダンス集会や長縄大会を継続して行い、運動の楽しさを味わえるようにする。 ・荻野スポーツの日や体育館開放について職員に周知し、積極的に使ってもらえるようにする。 ・運動例のワークシートを活用し、身体を動かす楽しさを味わう授業作りを行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年の調査では体力はついていないが、外遊びへの意識はすぐには変わらない。今後も様々な取り組みを継続してほしい。 	

開 か れ 信 頼 さ れ る 学 校	学校情報の積極的な発信	・積極的に学校情報を発信する。	・学校だよりを月3回以上発行し、地域にも配布する。 ・学校ホームページを月3回以上更新し、学校情報を積極的に発信する。 ・体育大会や音楽会などの学校行事の案内を地域に配布する。 ・オープンスクールを年1回実施し、学校の生活全体の様子を個人情報に留意しながらHPや学校だよりで積極的に公開する。	・学校だよりを月3回以上発行する。 ・自校のホームページを月3回以上更新する。 ・学校行事の案内を配布して、地域の方々に参加してもらおう。 ・オープンスクールを年1回実施する。	A	・保護者から「学校公開」において、高い評価を得ることができた。 ・「達成目標」を全て達成することができた。 ・ホームページに公開する情報で、学年の偏りがないようにする。	・来年度の音楽会においても地域に発信し、案内していく。 ・学校だよりやホームページの回数を維持しながら、個人情報に留意し、質を向上させていく。	・学校だよりに加えてHPではPTAだよりもアップした。一日あたりの閲覧数を増やすために、HPの存在を知らせていくことが大切。
	安全安心な学校作り	・事故・犯罪・災害などに対する対処法や回避法に関する教育を行い、危機対応能力を育む。	・年3回の避難訓練・集団下校訓練を行い、訓練に合わせて自分の身の守り方についての指導を行う。 ・教職員対象に夏季研修で不審者対応訓練及び研修、防災研修を行う。 ・3年生で行う自転車教室や保健、特別活動の時間を利用して自転車の乗り方の指導を行う。 ・交通安全や災害について、家族で話し合えるようプリントを配布する。	・児童アンケートにおいて「自転車に乗るときに交通ルールを守っている」「避難訓練のとき、きまりを守って自分で避難できる」を回答する割合を90%以上にする。 ・保護者アンケート「家庭で、緊急時の避難や不審者に出会った時の対応について子どもと話し合っている」を85%以上にする。	A	・実際に6月に地震がおき、引き取りを経験してみて、引き渡すのが遅くなった児童が多く出てしまうことが分かった。 ・不審者対応訓練を行い、児童が身の守り方を学んだ。 ・教職員の不審者対応訓練に目的意識をもって取り組むことができた。 ・緊急時の避難場所について、プリントを配布したことで、家庭で話し合う機会ができた。 ・さすまたの配置場所を検討していく。	・防災カードを「家族以外で迎えに来る知り合いの人」という欄を新たに設けて再作成した。 ・安全な生活、自転車の乗り方や扱い方について、全校集会や各クラスで定期的に取り上げて学習する。	・保護者は、学校の先生がどんな仕事をしているのかよく知らない。「教師による防犯の研修」など、学校内部での取り組みをもっと知らせた方が良い。
	「荻野っこ」ならではの教育の充実	・すすんであいさつをし、廊下を正しく歩く。 ・荻野小ならではの学校行事等に進んで参加する。 ・地域行事への参加	・児童会(委員会)を中心に高学年が校門に立ち、あいさつ運動を実施する。 ・児童会(委員会)を中心に高学年が交代で廊下に立ち、廊下の歩き方を呼びかける。 ・はじめましてタイム・ふれあい週間・ふれあいタイムを年1回実施し、異学年の交流を行う。 ・なわとび大会、盆踊り、グランドゴルフ、地区運動会などへの積極的な参加を呼びかける。	・児童アンケートで「あいさつができています」を85%以上にする。 ・児童アンケートで「廊下を正しく歩いているか」を85%以上にする。 ・児童アンケートで「学校行事にすすんで参加できている」を85%以上にする。 ・ふだんの生活の中でも異学年同士が交流し合う場を増やす。 ・教職員アンケート「クラスの児童に、学校以外の地域の行事などを案内している」を85%以上にする。	A	・校内に廊下を正しく歩く掲示物が増えた。 ・廊下を正しく歩くように、教師が積極的に声かけをした。 ・地域の行事に、教師が役割分担して参加するようになった。	・廊下を正しく歩くように、意識して声かけをすることを継続していく。 ・新指導要領移行にともない、児童会の活動内容を見直す時期にきているが、異学年交流は、高学年の自尊感情を高めるためにも続けていけるようにしたい。	学校の中でも外でも、誰かが見守ることで、子どもたちはルールを守ろうとする。見守りや声かけがとても大切である。

学校関係者評価総括

子どもを中心に据え、荻野っ子らしくのびのびと育つ、荻野小学校ならではの学校運営・教育を推進してほしい。

次年度に向けた重点的な改善点

- ①一人ひとりの子どもの自尊感情を高める ②家庭・地域と連携し、基本的な生活習慣・学習習慣・読書習慣を確立する ③体力の向上をさらに進める。

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った